

学びを通して、制度が目指していることと、実際におこなわれていることが違うことに気づいてもらったり、みなさん自身ももっと活躍できる場所を整えること、SSWerが正規職員として各自自治体に配置されることの必要性にも目を向けていきます。
武田：本課程の受講生には、大学院ならではの視点を養い、自分の立ち位置を相対的、客観的に俯瞰しながら実践できる力を身に付けてほしいと考えています。公益大大学院では、行政、学校、地域を巻き込んで、SSWerの活動指針など大きな環境を作ることに取り組みます。山形県内で多様な職種で活躍

する公益大・公益大大学院のOB・OGの方はもちろん、多くの方と連携・協力していきたいですね。



SSW 座談会を聞いて

みなさんの話を聞き、とくに、子どもがもがいているという言葉が響きました。子どもを中心に考えて、子どもと学校・家庭とをつないでいくことの難しさを感じた反面、やりがいも伝わり、改めてSSWerとして活躍したいと強く思いました。大学院の研究においては、何を研究したいか・何を研究していけばいいのかが見えてきましたので、より一層学修・研究に励んでいきたいです。



相馬さん
 公益学研究科 修士課程
 SSW 教育課程在籍

東北公益文科大学大学院 スクールソーシャルワーク教育課程

SSW教育課程の受講資格

修士課程の出願資格を満たしている方で**社会福祉士**または**精神保健福祉士**の**有資格者**

※本学学部生については、大学院入試の出願・受験時に上記資格の取得見込みでも可。

教育課程の受講は、資格が取得できなかった場合は認められません。

SSW教育課程および修士課程修了要件

SSW教育課程

●科目の履修 以下のカリキュラムを参照

本学修士課程

●科目の履修 入学時のカリキュラムから合計30単位以上

●修士論文の執筆 修士論文審査・最終試験に合格

SSW教育課程のカリキュラム

科目名	単位数	履修区分・科目履修の免除			
		SSW実務経験2年以上	教職普通免許保有	社会福祉士有資格	精神保健福祉士有資格
地域共創研究d(スクールソーシャルワーク論)	2	必修	必修	必修	必修
スクールソーシャルワーク演習	2	必修	必修	必修	必修
スクールソーシャルワーク実習指導	2	免除	必修	必修	必修
スクールソーシャルワーク実習	2	免除	必修	必修	必修
教育行政※	2	免除	免除	必修	必修
生徒指導論※	1	免除	免除	2単位以上 選択必修	2単位以上 選択必修
進路指導論※	1	免除	免除		
教育心理学※	2	免除	免除		
教育相談の理論と方法※	2	免除	免除		
精神保健学※	2	必修	必修	必修	免除
児童・家庭福祉論※	2	必修	必修	免除	必修
公的扶助論※	2	免除	免除	免除	必修
教育学※	2	履修推奨	履修推奨	履修推奨	履修推奨

※印の科目の単位数は、修士課程の修了単位には含まれません。

SSW教育課程 講師

牧野 晶哲

白梅学園大学
 子ども学部 子ども学科 准教授
 東北公益文科大学大学院 非常勤講師

土屋 佳子

東北公益文科大学大学院 非常勤講師

武田 真理子

東北公益文科大学 公益学部 教授
 大学院公益学研究科長

問合せ

東北公益文科大学 大学院事務室

997-0035 山形県鶴岡市馬場町 14 番 1 号
 TEL : 0235-29-0555 E-mail : gs@koeki-u.ac.jp
 URL : https://www.koeki-u.ac.jp/academics/gs/



このリーフレットは、令和6年度公益のふるさとづくり活動補助事業として作成しました。 2025年(令和7年)3月作成

東北公益文科大学大学院

山形県庄内地域で活躍する スクールソーシャルワーカー

～東北公益文科大学大学院で学び、活かす～

Q1.

スクールソーシャルワーカー (SSWer) って何ですか？

→ 子どもに寄り添う、「チーム学校」における
 社会福祉の専門職です！

学校の教員・養護教諭・事務職員、スクールカウンセラー、教育委員会等と協働しながら子どもと家庭、学校を支えます。いじめや不登校、その他のさまざまな問題に対し、学校の中にとどまらず、地域の多様な人や関係機関とともに、子どものおかれた環境への働きかけを行い、改善を目指します。子どもが元気に学び、成長できる環境を整えるため、子どもと保護者を学校の中と外の両方から支援します。

Q2.

具体的にどんなことをしていますか？

→ 子どもたちや家庭、学校をサポートするべく、
 話を聴き、調整し、問題解決を促します。

- 問題を抱える児童・生徒が置かれた環境への働きかけ
- 関係機関等とのネットワークの構築、連絡・調整
- 保護者や学校教職員等に対する支援・相談・情報提供
- 学校教職員等への研修活動・・・など

Q3.

スクールソーシャルワーカーは身近にいますか？

→ います！山形県にはいろいろな形で
 スクールソーシャルワーカーが活躍しています。

山形県のスクールソーシャルワーカーの配置状況

■山形県エリアSSW

各教育事務所
 (村山、最上、置賜、庄内)

■山形県配置SSWコーディネーター

上市市、天童市、河北町、大江町、
 村山市、東根市、大石田町、真室川町、
 鮭川村、大蔵村、戸沢村 米沢市、南陽市、
 川西町、三川町、庄内町、遊佐町

■市町村配置SSW

山形市、天童市、東根市、西川町、大石田町、
 金山町、最上町、鮭川村、米沢市、長井市、
 南陽市、高島町、鶴岡市、酒田市、三川町、
 庄内町、遊佐町
 ※寒河江市はR7年度から配置予定

■山形県配置子どもふれあいサポーター

山形県内13の小学校に配置



令和6年3月 大学院調べ

座談会 スクールソーシャルワークとその学び



司会
武田 真理子
東北公益文科大学
公益学部 教授
大学院公益学研究科長

東北公益文科大学大学院 修士課程を修了し、スクールソーシャルワーカー(以下 SSWer)として活躍している3名と、修士課程科目「スクールソーシャルワーク論」をご担当いただいている白梅学園大学 牧野晶哲准教授から、子どもたちと学校の今について、また SSWer に求められることや課題、学びについて、それぞれの立場からお話しいただきました。(収録日 2025年1月24日)

①子どものこと、学校のこと

武田: 皆さんは、本学大学院で SSW について学び、庄内地域で現役の SSWer としてお仕事をされていますが、現在の子ども、学校の状況についてどう感じていますか？

本間: 庄内町で SSWer として勤務して8年です。日頃は幼稚園5園を月に1回程度、小中学校7校を週に1回を巡回しています。日々、学校現場にいる身としては、学校は、子どもたちみんなが参加しやすい授業を行う工夫をするなど価値や魅力を向上しようとしています。今後、地域から学校がどのようなことを求められるかなどのニーズを注視し、SSWerとして学校の先生の助けになれば、と思っています。

横山: 私は2024年から酒田市の SSWer として働いています。「不登校」という1つの問題であっても、とても複雑で、家庭の環境や精神的な部分などがありますが、そのような中、みんな頑張っ、もがいて生きています。

杉山: 私も横山さんと一緒に酒田市の SSWer として勤務していて、3年です。子どもたちはひとりひとり違うので一律にこうだというのは難しいですが、子どもたちと接してみて、みんな今を一生懸命歩んでいると強く感じます。最近、県内でも子どもの SOS の出し方教育が行われています。自死を止める方法論はないという研究結果がありますが、帰属ができなくなった時にそうになってしまう。いじめ問題や学力格差もそうです。子どもたちがつながりを見つめることが大切だと思っていて、子どもの権利から何ができるかを考えたときに、子どもの居場所づくりであったり対話サークルなど、社会と子どもたちひとりひとりがつながるような活動を心がけています。

●酒田市立富士見小学校における SSWer の協働事業

酒田市教育委員会と酒田市公益活動団体との協働事業の一環として、多機能福祉施設こもれび、東北公益文科大学大学院 SSW 教育課程が共同で、富士見小学校の校内居場所「ふらっとるーむ」の運営と、子どもたちが安全安心に意見表明できるための「修復的対話(RJ)」などの活動に取り組んでいます。杉山氏がコーディネーターとなり2023年9月に「ふらっとるーむ」が開設され、牧野氏の指導の下で2024年2月に初めての小学校1・2年生を対象としたRJサークルを行いました。教職員の研修を含めて、学校がみんなにとって安全で安心できる場になるよう、継続的、重層的な活動を展開しています。

牧野: 他の地域の SSWer からもみなさんと同じ話をよく聞きます。日本全体で見ても、子どもたちと人とのつながりの場所が少なくなっているのが事実です。子どもの数は年々減ってきています。子ども同士のつながりが減り、家庭の規模も縮小している。家庭内で歯車が狂うというんな影響が出る。経済面、養育面、医療面など子どもにしわ寄せが来てしまっている状況です。

子どもと地域とのつながり、親族同士のつながりも少なくなっている中で、子どもが人とつながりやすい場は学校です。近年、家庭の貧困や虐待などの様々な問題をキャッチアップしたり、人とのつながりが薄いことへの対応が学校に求められています。学校にその受け入れ体制があるのか、本来学校はそれを求められる場所ではなかったはず。

児童・生徒とその保護者は、「学校に来なくてもいい」と言われても、学校に行かない場合にどのようなライフステージがあるのかわかりませんし、実際にはない。生きづらさが生まれているし、人と地域とのつながりの薄さが生きづらさを助長している。そして、不登校、非行、自死という形になって出てきているんだと思います。

本間: 牧野先生からお話しがあった歯車で例えると、昔は「子どもってこんな感じ」という歯車の種類がそれほど多くなく、大人も噛み合う形を想像しやすかったように感じます。今の子どもたちは、歯車の形・色・サイズのバリエーションが非常に多い。しっかり噛み合う歯車が見つけれず、不安そうな子どもたちの姿を見ることもあります。学校にいるクラス・学年・保健の先生などの大人もいろいろな種類の歯車を持っているので、きっと噛み合うはず。先生方との関係が難しいと思えば、定期・不定期でやってくる地域の方や SSWer と歯車が噛み合うかもしれないという期待感を持って登校してもらいたいです。噛み合う歯車がオンライン上で見つかることもあると思います。身近に頼る場所がなくてもどこかにつながる場所がきっとあります。ただ、オンラインだけではなく、近くに仲間や親にも頼っていいんだよと気付いてほしいので、「遠くのあなたと隣のあなた」どちらも大切にしたいですね。

②SSWerに求められていること

武田: 今までお話いただいた子ども、学校の状況や変化の中で SSWer に求められていることは何でしょうか。

本間: 学校や自治体ごとに SSWer の見方や求めるものが違うと感じています。私はどの場所であっても、子どもにとって価値のある SSWer であることを意識することに努めています。子どもと対話し、子どもからの発信をキャッチし、キャッチしたものをしっかりと対応につなげることに日々取り組んでいます。

杉山: 今年度酒田市は SSWer が3名体制になったことで定期的に全小中学校を巡回しながら、予防的支援をすすめています。学校から SSWer の面談を依頼されることも増えていますが、ひとりの SSWer としてできることは限られています。地域全体で子どもの声を聴き、受け止め、子どもたちが大事にされていると感じられるような地域であれたらと、自主的に勉強会などもはじめています。地域全体が子どもと関わり、そのネットワークが広がっていったらいいなと取り組んでいるところです。

横山: SSWer が全ての子どもに会うことは難しいので、SSWerと一緒に子どものことを考える大人が増えるといいですね。また、SSWer の支援対象は義務教育の範囲に限られています。中学校卒業後の悩みなども一緒に考えられる仲間が増え、子どもと対話する・子どもたちと一緒に考えることができることが求められていると思います。

武田: スクールカウンセラー(以下 SC)など他の職種との違いはなんですか。

横山: 学校ごとの判断で SC、SSWer への協力・支援を依頼しているところが多いようです。問題の背景に、児童・生徒本人の心理問題がある場合は SC、家庭等の環境の問題の場合は SSWer が主に対応します。

③大学院でSSWを学ぶ価値

武田: 大学院で SSW を学ぶ意味や価値についてお聞かせください。

横山: 大学院に入学したことで、自治体における SSWer のありかたを理解することも、疑問点を感じることもできました。課題に気づいたり、仮説を立てる・検証する力などは、大学院での学修・研究を経て得られたものです。公益大大学院の SSW 教育課程では、先進事例の視察をしたり、教育委員会の協力により SSW 実習を行うため、非常に充実した2年間を過ごせました。実習を通して子どもに近い存在でありたいと強く感じましたし、今 SSWer として子どものために実践できていることを嬉しく思います。

杉山: 大学院入学までは行政職員として病院や障害福祉などの業務に従事していました。いつか SSWer になれたらという思いがありましたので、大学院入学は私のキャリアパスに強く関わることになりました。大学院修了後の今も、先生方や共に科目履修した仲間と連絡をとり合っていて、大学院で学んだ知識や経験、つながっているという感覚が SSWer としての仕事の安心感・物事を進めていくときの勇気になっています。

本間: 学校で課題が見つかった時には、学校内の先生方でのように取り組むかを検討する段階で、SSWer も一緒に対応を検討できれば、と思います。

牧野: SSWer の基礎資格である社会福祉士または精神保健福祉士は、福祉の制度やサービスの情報を学校・保護者に提供する役割があります。ただ、学校で務める・活動する場合は情報提供に重きを置くのではなく、学校の中心は子どもたちと考え、子どもたちのフィルターを通して、家庭・学校・地域等の環境を整え、その上で子どもたちが生きる力を発揮し、子どもたちが自分の力で生きていくことをともに目指す。それが SSWer として一番大切にすべきことではないかと思えます。子どもの話を聞き、耳を傾け、勝手に決めるのではなく一緒に歩いていく、つまりいたり後退することも含めて、関わり続けていくことが重要ではないかと思えます。

●子どもの権利とは

1989年の国連総会で採択された「子どもの権利に関する条約(子どもの権利条約)」は、現在では全世界で196の国と地域が締結する世界で最も広まった人権条約です。子どもは「弱くておとなから守られる存在」という従来の考え方から、子どもも「権利の主体」であるという考え方に基づいています。具体的には、①差別の禁止、②子どもの最善の利益、③生命、生存及び発達に対する権利、④子どもの意見の尊重の4つの原則を掲げています。

日本は1994年に批准をし、全ての子どもが将来にわたって幸福な生活を送ることができる社会の実現を目指し、子ども政策を総合的に推進するために子ども基本法を2023年に施行しました。SSWer はその重要な担い手として位置づけられています。

本間: 私は元々庄内町で SSWer として現場にいましたが、社会福祉士としての知識・スキルだけでは対応に悩むこともありました。より良い対応・実践にあたり理論を学びたいと感じていたところで、公益大大学院で SSW を学べることを知り、科目等履修生として牧野先生担当の「スクールソーシャルワーク論」を履修しました。その後、正科生として入学し、修士論文の執筆を通して SSWer としての考えを固めることができました。修了後は、SSWer として悩んだ際に本来どうあるべきかと立ち返るときに、大学院での学びをふりかえています。大学院は、自分が帰る場所、ふるさとですね。

牧野: 公益大大学院は、日本で最初に SSW 教育課程を大学院に設置しました。大学院に設置することの意義は SSWer の養成だけではなく、SSW は開拓しきれていない領域であり、制度や政策を整えることも、マクロな視点を持って取り組むこともまだまだ必要です。私の講義では、制度や教育政策にも関心を向け、自分たちの置かれている状況を確認し、自分が実現していきたい SSWer 像に近づいていくために学ぶということを意識しています。



牧野晶哲氏
白梅学園大学 子ども学部 子ども学
准教授



本間 圭太郎氏
庄内町教育委員会
スクールソーシャルワーカー
公益学研究科 修了生
SSW 教育課程 修了



杉山 義法氏
酒田市教育委員会 スクールソーシャルワーカー
公益学研究科 修了生
SSW 教育課程 修了



横山 夢月氏
酒田市教育委員会
スクールソーシャルワーカー
公益学研究科 修了生
SSW 教育課程 修了